

平成 15 年度第 1 回総合目録データベース実務研修 グループ演習
「NACSIS-CAT/ILL Q&A DB の充実に向けて～レコード調整を楽にするために！～」

2003.10.9

宮城教育大学 菅原 淑子
名古屋大学 夏目 弥生子
立命館大学 富田 耕平

はじめに

NACSIS-CAT への参加館、書誌レコードは順調に増大しており、利用者に求める学術情報を提供するという総合目録データベースの目的は一定達成されていると考えられる。一方で、共同分担目録方式によって目録業務の効率化を図るという面では、重複レコードの増大とその調整が大きな障害となっている。以下ではそのレコード調整業務に関する現状の問題点を挙げ、その解決方法を模索したい。

1. 各大学図書館を取り巻くレコード調整業務の問題点

総合目録データベースの品質低下：重複書誌の増大 レコード調整の増大
基準では判断できない事例がある
心理的な負担

<問題点の原因>

目録業務担当者のスキルの低下

目録業務のアウトソーシング等、様々な要因で業務のスキル・経験の継承が難しい。

非常に大きな課題だが、今回はレコード調整を行う者の立場から問題点を検討していきたいので、以下に重点を置く。

担当者のコーディングマニュアルの解釈の違い

コーディングマニュアルの内容だけでは判断出来ないものがある

それを補完する抜刷集・NACSIS-CAT/ILL Q&A DB（目録所在情報サービスに関する質問書/回答書データベース検索システム：以下 Q&A DB と記す）を活用しきれていない。

解釈の違いを生み、調整を難しくしている

NII、相手館への遠慮や煩雑な作業のためのあきらめ

協議の場合は相手側の都合によって、NII への依頼の場合も返答をいただくまでに時間を要する。判断に確信がもてないところでの協議・調整は難しい。また問題があると思われる書誌に所蔵館が多数ついている場合、労力を要するため調整に及び腰になってしまう。

総合目録データベース共同構築の主旨、精神に反する

2. 問題点を解決するためのひとつの提案

「Q&ADB の充実を図る。」

Q&A DB は参加館から寄せられた質問・報告事項の中から普遍化する必要があるものが登録された DB である。現状ではコーディングマニュアルに沿って判断の難しい事例があり、その調整の拠り所として抜刷集と Q&A DB が活用されている。しかし現状の Q&A DB はレコード調整を担当するものにとって必ずしも使い勝手の良いものとは言えないのではないかと思われる。そこで以下では検索段階と内容の2つの切り口でより使いやすい Q&A DB にしていくための方法を模索する。

Q&A DB の検索画面の改善案

< Q&A DB の検索画面 > 添付資料 1 ~ 3

タイトル・質問文は参加館の記入した内容となる。受付順に管理番号が付与される。

回答されたものの中から、普遍化する必要があると判断されたものを NII が Q&A DB に登録。

検索 : 1 . キーワード

入力されたキーワードが、レコードのタイトル・質問/回答文・書誌 ID のいずれかに含まれるレコードを検索

2 . 件名 (選択リスト)

NII が内容に応じて付与

3 . フィールド (選択リスト)

NII が内容に応じて付与

4 . ファイル (選択リスト)

5 . 質問書管理番号

1 ~ 5 から一つずつ、複数の検索条件を指定すると論理積(AND)検索、2 から 4 の同一リスト内の項目間は論理和(OR)検索となる。リスト内で複数項目を選択するには Ctrl キー + マウスの左クリック。

キーワードはスペースを入れて複数入力可。論理積(AND)検索となる。

検索結果：検索条件に該当したレコード総数と、その管理番号及びタイトルが一覧表示される。

<改善のポイント> 添付資料4

事例に応じて参考出来る回答レコードを、より検索しやすいようにする！

論理和(検索)が容易に行えるようにする

絞り込み検索が可能のようにする

検索結果に必要な情報(日付など)を追加する

文字フォントを大きくする

タイトルと内容の関連性の強化(質問・報告をする側の意識の問題、NII側で)

NACSIS-CATのページからたどりやすくする

複数件の詳細表示を可能にする。

加えて欲しい個別事例の紹介 添付資料5-1～2

PTBLのとり方

TRやVOL、VTとの関係 資料13、16、17、18、19

固有のタイトルの判断 資料1

刷と版の判断 資料3

このような事例をどんどん蓄積していくことが必要である

3. 要望とまとめ

Q&A DBの信頼性の向上

最新の情報、豊富な事例の登録

質問から回答までのタイムラグの解消

使いよく、事例が豊富な拠り所があれば、協議もよりスムーズに進む。心理的な負担も軽減されるのではないか。

利用の手引きの見直し

同一選択リスト内の複数項目の選び方(追加)

入力できるキーワードは複数可(訂正)

レコード調整連絡ツールが活用出来るように、全ての参加館がe-mailアドレスを登録することを義務付ける。

アウトソーシングの指針の作成、研修計画

重複書誌を減らすことで、レコード調整の根本的な原因を解消するように努める必要がある。

以上